



羽田空港

WEATHER TOPICS



定期号

通巻 第 3号

2010年(平成22年)

12月21日

発行

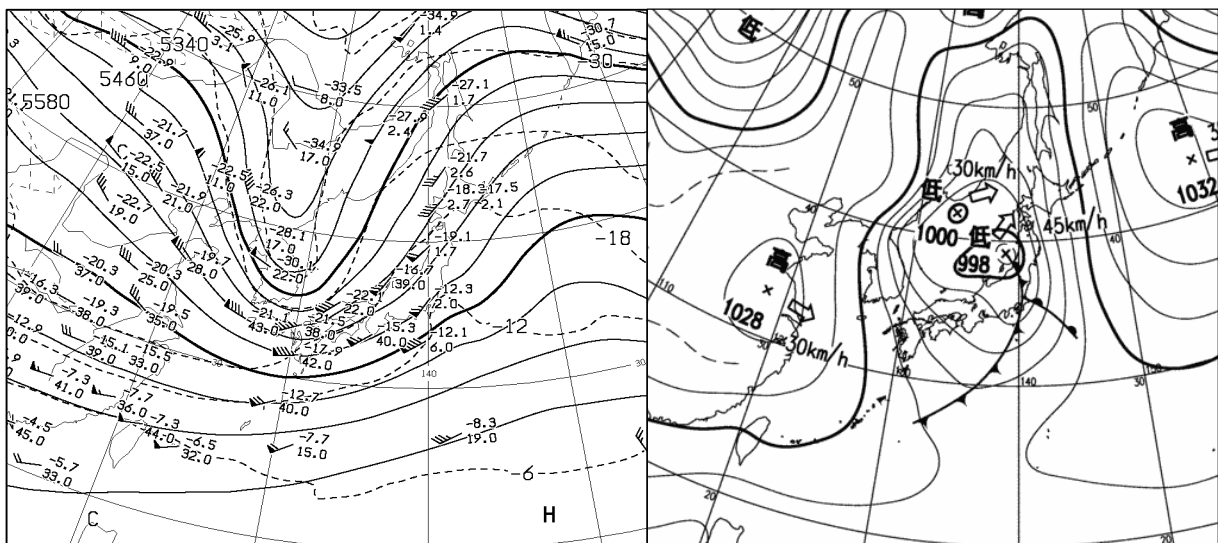
東京航空地方気象台

12月3日の大雨と強風について

1 概況

12月3日は日本付近を深い気圧の谷が通過し(第1図)、日本海を発達中の低気圧が通過しました(第2図)。また、日本海の低気圧から南にのびる前線の閉塞点上に小低気圧が発生し、関東南部を通過しました(第3図)。関東南部を通過した小低気圧付近では南寄りの暖かく湿った空気が入り前線の活動が活発となり、雷や突風を伴った強い雨となりました。

日本海の低気圧は、その後も発達を続け、日本海北部まで進んだため、日本付近は強い冬型の気圧配置となりました。低気圧や冬型の気圧配置によって、羽田空港では夜まで南西の強風が続きました。



第1図 500hPa 天気図 2010年12月3日09時

第2図 地上天気図 2010年12月3日09時

2 羽田空港の実況

羽田空港では、3日03時(以下時刻は日本時間)頃まで10kt以下の弱い北寄りの風となっていたのですが、南風が次第に強まり05時頃には、20ktを超えるようになりました。

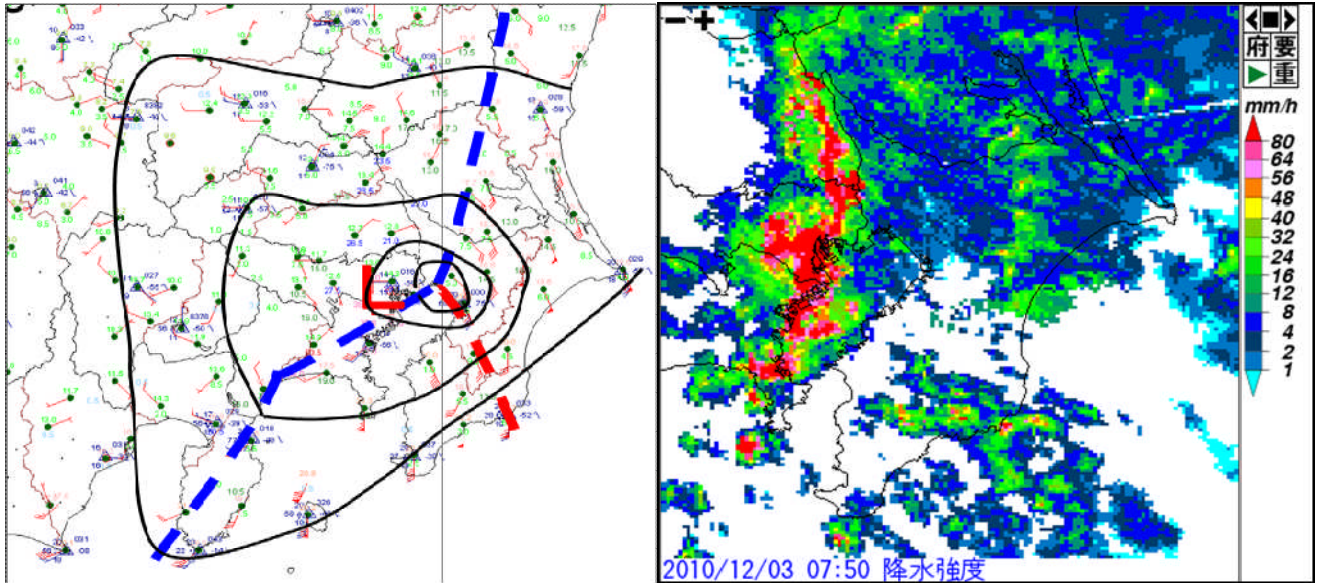
その後、日本海からのびる前線の閉塞点上に発生した小低気圧が、羽田空港付近を通過し08時36分には日最大1時間降水量33mmを観測しました(第4図)。この降水量は12月としては1位の記録でした。3日の羽田空港の日降水量は68.5mmでした。また、この低気圧に伴う強い雨により、08時00分には、視程が一時的に300mまで低下しました。

小低気圧は、伊豆半島から約70km/時で北東進し、羽田空港のすぐ北を通過しました。このため羽田空港では、風向が南東→南→南西と変化する強風となり、低気圧通過直後の

8時頃には一時的に西～西北西の風となって風速もやや弱まりましたが、09時以降は再び日本海の低気圧に吹き込む南西風が強まるという短時間の風の変化を観測しました。

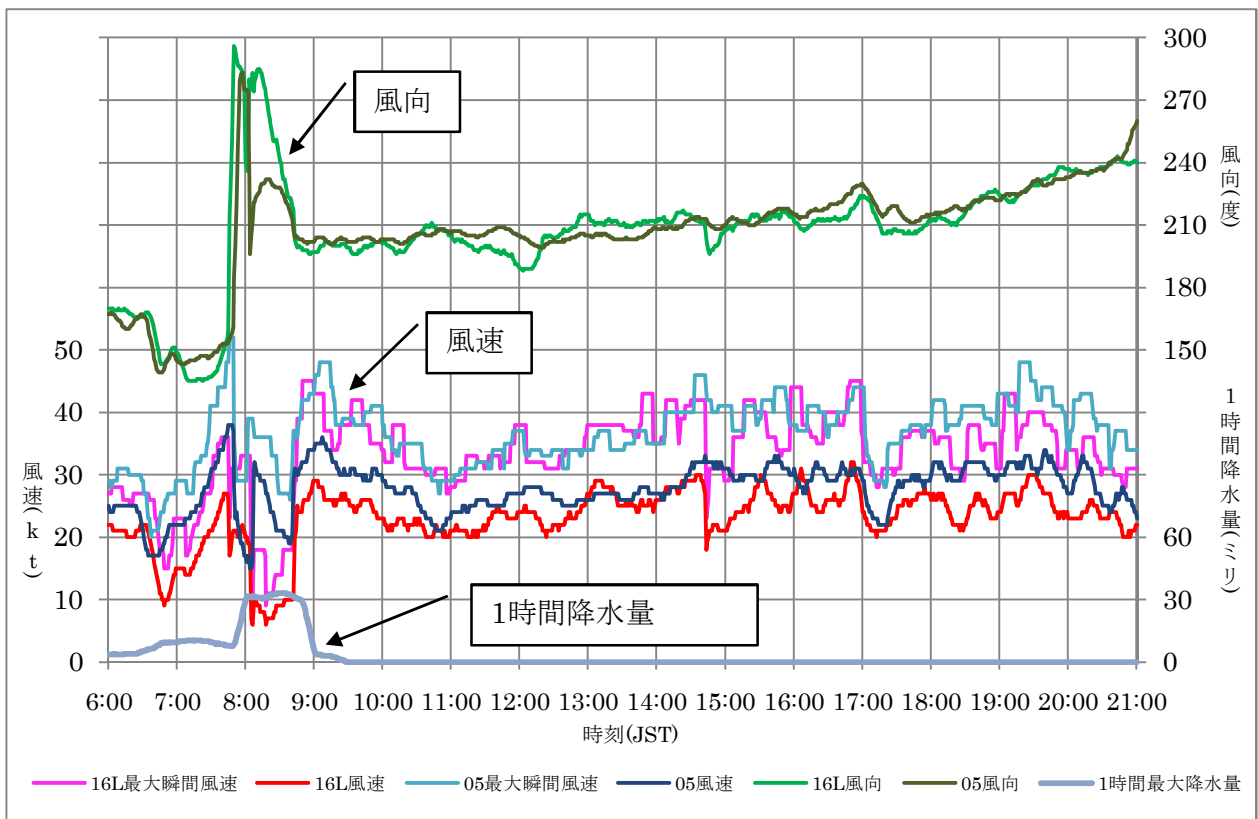
日中は日本海を北上する低気圧に向かう南西強風が続き、冬型の気圧配置に変わって寒気が流れ込んだ夕方以降には、C滑走路の16L側では、16時53分に日最大風速32kt（南西：220°）を、16時49分には日最大瞬間風速45kt（23.1m/s）（南西：230°）を観測しました。

一方、D滑走路の05側では、小低気圧が接近した07時46分に最大風速39kt（南東：160°）を、07時46分に最大瞬間風速52kt（南東：160°）を観測しました（第5図）。



第3図 局地解析域天気図 2010年12月3日08時

第4図 降水強度 12月3日07時50分



第5図 代表風（16L）とD滑走路05の風向風速および1時間降水量（3日06時～21時）

3 飛行場警報等

① 飛行場警報

3日06時00分(2100UTC)	飛行場強風警報	第1号
3日07時50分(2250UTC)	飛行場強風警報	第2号
3日08時33分(2333UTC)	飛行場強風警報	解除 第3号
3日08時47分(2347UTC)	飛行場強風警報	第4号
3日14時40分(0540UTC)	飛行場強風警報	第1号
3日17時45分(0845UTC)	飛行場強風警報	解除 第2号
3日19時45分(1045UTC)	飛行場強風警報	第3号
3日21時10分(1210UTC)	飛行場強風警報	解除 第4号

② 飛行場気象情報

3日02時30分(1730UTC)	ウィンドシアア／雷に関する飛行場気象情報	第1号
3日05時00分(2000UTC)	ウィンドシアア／雷に関する飛行場気象情報	第2号
3日06時05分(2105UTC)	雷に関する飛行場気象情報	第3号
3日07時55分(2255UTC)	雷に関する飛行場気象情報	第4号
3日08時50分(2350UTC)	雷に関する飛行場気象情報	解除 第5号
3日17時50分(0850UTC)	ウィンドシアアに関する飛行場気象情報	第1号
3日19時45分(1045UTC)	ウィンドシアアに関する飛行場気象情報	解除 第2号
3日21時15分(1215UTC)	ウィンドシアアに関する飛行場気象情報	第3号

③ FCST コメント等

2日21時00分(1200UTC)	強風に関するFCSTコメント
3日09時30分(0030UTC)	強風に関するFCSTコメント

4 まとめ

12月3日は、C滑走路側の16Lでは南西風で、D滑走路側の05では南東風で最大風速を観測しました。05では、16Lより南東風は強めに吹いていましたが、南西風は南東風と比べ16Lと同程度の風速でした。このように、滑走路によって気象状況に大きな違いが出ることがあります。

今回のように、前線を伴う低気圧が日本海を発達しながら北東進する時、前線上の太平洋沿岸に小低気圧が発生することがあります。この場合、日本の南から暖かく湿った空気が流れ込み、小低気圧付近では短時間に強い雨が降ったり、強い風が吹くことがあります。また、低気圧の通過に伴って風向も急激に変化しますので、短時間の気象変化には十分な注意が必要です。

(東京航空地方気象台 予報課)

